そだちのねっこ

～乳幼児期の遊びより～

「これつけたら、どうなる！？」
～試して・感じて・学ぶ力へ～

5月30日（火）、5歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。

『おばけの森駅』と言う、段ボールで道がつくられた迷路のような遊びがありました。その道の上にはいろいろな素材でつくられたおばけが吊り下げられていました。子どもたちが自由に吊り下げられるように洗濯ばさみが付いていました。

A児「ペットボトルつけてみよ」「めっちゃ揺らしたらスピード出るな」
B児「ほんまや」「もっと揺らしてみよ」
A児「あっ、ごめん」「当たってしまった」
B児「うん。ペットボトル、結構当たったら痛いわ」
A児「ごめん。当たったら痛いのはあかんな～」「なんか痛くないもの探してくるわ」
B児「一緒に探そ」
A児「これやったらどうやろ？（豆腐のプラカップをもってくる）」
B児「吊ってみよ。揺らしてみて」
A児「中に手裏剣入れて落ちへんように揺らしてみるわ」
B児「ゆるめな！でも・・・。これも当たったら痛いわ」
A児「う～ん。ちょっと考えよか」
という子ども同士の会話を聞きました。

おばけになる素材を実際に吊り下げてどうなるか試している姿でした。保育者から「危ないからだめ」と注意をされてやめるのではなく、見守りながらも子ども同士のやりとりを聞き、「よく気づいたね。どうする？」と子どもたちが自分たちで問題意識をもち、解決につながるような保育者の声かけや試すことができる環境も重要なポイントとなります。そうすることで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながり、思考力・判断力・表現力等の基礎を育むきっかけとなります。